

福島第一原子力発電所 3号機原子炉建屋上部瓦礫撤去工事における 燃料交換機マストと思われる瓦礫の水没の可能性について

平成25年2月8日
東京電力株式会社

平成25年2月6日に実施した使用済燃料プール上部の鉄骨トラス瓦礫撤去作業において、当該瓦礫撤去作業前に使用済燃料プールに存在していた燃料交換機マストと思われる瓦礫が、作業後の画像において確認できなかったことから、昨日（2月7日）、プール内に水没した可能性があるかと判断いたしました。

燃料交換機マスト

燃料集合体を移動する際に使用する掴み具を昇降するための伸縮性のポール（長さ：約5～23m、重さ：約1.5トン）

今後、準備が整い次第、水中カメラによる使用済燃料プール内の状態確認にあわせて、燃料交換機マストと思われる瓦礫がどのような状態で水没しているか、調査を行う予定です。



瓦礫撤去作業前（平成25年2月4日撮影）



瓦礫撤去作業後（平成25年2月6日撮影）

鉄骨がれき等が使用済燃料プール内に落下した場合に確認する5項目について有意な変化がないことを確認。

スキマーサージタンク水位の異常な低下
原子炉建屋5階オペレーティングフロア雰囲気線量の異常な上昇
使用済燃料プール水面の異常
(水面の急激な低下、気泡の発生、変色等)
モニタリングポスト(可搬型を含む)の有意な上昇
使用済燃料プール水の放射能濃度の有意な上昇

2月8日(撤去後)のプール水の核種分析結果

- ・セシウム134 : $5.0 \times 10^2 \text{Bq} / \text{cm}^3$
- ・セシウム137 : $9.3 \times 10^2 \text{Bq} / \text{cm}^3$
- ・ヨウ素131 : 検出限界未満(検出限界値 $6.8 \times 10^0 \text{Bq} / \text{cm}^3$)

2月7日(撤去後)のプール水の核種分析結果

- ・セシウム134 : $5.3 \times 10^2 \text{Bq} / \text{cm}^3$
- ・セシウム137 : $9.6 \times 10^2 \text{Bq} / \text{cm}^3$
- ・ヨウ素131 : 検出限界未満(検出限界値 $7.4 \times 10^0 \text{Bq} / \text{cm}^3$)

2月5日(撤去前)のプール水の核種分析結果

- ・セシウム134 : $5.0 \times 10^2 \text{Bq} / \text{cm}^3$
- ・セシウム137 : $9.0 \times 10^2 \text{Bq} / \text{cm}^3$
- ・ヨウ素131 : 検出限界未満(検出限界値 $6.7 \times 10^0 \text{Bq} / \text{cm}^3$)